



2007 ~ 2008 年度
R I テーマ

ROTARY SHARES

ロータリーは分かちあいの心

国際ロータリー会長 ウィルフリッド J. ウィルキンソン(国籍・カナダ)

2720 地区

別府中央ロータリークラブ



例会日 火曜日 12時30分
ところ トキ八別府店 7F ぼたんの間
TEL 23-1111
事務所 別府市西野口町1番1号 青山通りビル3F
〒874-0931 TEL (0977) 23-9000
FAX (0977) 23-9019
http://www.beppu4rc.jp/chuo/
E-mail:info@beppu4rc.jp

理事	平野英壽	理事	桜田健治	役員	会長	森 宗明	S A A	上妻 浩
"	村津忠久	"	河村貴雄	副会長	平野英壽	直前会長	上妻 浩	
"	津末美代子	"	後藤孝弘	幹事	大島由美子			
"	後藤 隆			会計	近藤賢司			

VOL . 20 - 10
2007年9月18日

第 882 回 例 会

会報委員長 徳丸 一郎

点 鐘 12:30
体 操 自律神経強化体操
R S 我等の生業
唱 歌 箱根八里
B. G. M 「宗次郎ころのうた」より
この広い野原いっぱい
花のメルメン
若者たち 他

出席報告 委員長 中島 澄人

本 日	会 員 総 数	22 名
	出 席 者	16 名
	事前メイクアップ	1 名
	理 事 会 承 認	0 名
出 席	出 席 免 除	0 名
	欠 席 数	5 名
	出 席 率	72.73 %
前々回の訂正	出 席 率	77.27 %
	事後メイクアップ	3 名
	理 事 会 承 認	0 名
	出 席 免 除	0 名
9/4	修 正 出 席 率	90.91 %

連 続 0 回
通 算 728 回 100 %

・メイクアップ

事前 津末(別府RC 55周年)
事後 平野、河村、赤嶺(別府)
欠席 桜田、河村、木村、溝部、徳丸

ちに送るメッセージは、「悔いなく生きてください」と言うことなのだと思います。母が居なくなって確かに寂しくはなりましたが、頑張って生きてゆこうと、改めて生き方を見直そうと思っています。

改めて皆様のご厚情に心から感謝申し上げます。

会長の時間 会長 森 宗明

私事ですが、先週12日、義母が他界いたしました。昭和4年生まれの78歳でした。本年4月、大分医科大学で診察の折、膵臓癌が見つかり余命4ヶ月から半年と宣告をうけました。結局本人には病名の告知はしませんでした。最期まで家族は嘘をつき通すわけで、これはかなりつらい思いを致しました。が、今でも告知はしなくて良かったと思っています。それくらい、穏やかに安らかに眠るような最期でした。

人は生まれてきたときにたった一つ例外なく約束されていることがあります。それは死です。死後の世界があるのかないのかは別として、この機会に「人は必ず死ぬ」と言うことをもう一度真正面から考えて見ますと、つまりはどう生きるかという事になりそうです。いつ死ぬかは私たちに解りませんし自分の意思ではどうにもなりません。が、どう生きるかは私たちの意志でどうにでもできます。改めて悔いの残らない生き方をしたいと思いました。

死んで行く人たちが、死をもって残された者た



幹事報告

幹事 大島由美子

- 新世代のための月間 -

1. 本日の卓話

『皮膚科医として、この道50有余年』

鳴海 淳郎会員

2. 委員会報告

・社会奉仕委員会 村津忠久社会奉仕委員長

3. お祝い(次週、9月25日例会は夜例会の為、本日お祝い致します。)

会員誕生日 近藤 賢司会員(9月18日)

大島由美子会員(9月23日)

配偶者誕生日 徳丸スミエさん(9月29日)

* 記念品をお渡し致します。

4. 例会変更のお知らせ

日出RC 9月25日(火)の例会は、日出RC旗争奪少年野球大会の為 9月24日(祝) 9:00~黒岩グラウンドに日時・場所変更

湯布院RC 9月26日(水)の例会は、早朝例会・清掃奉仕活動の為 同日6:00~山崎グラウンド周辺に時間・場所変更

別府北RC 9月26日(水)の例会は、観月家族例会の為 同日18:30~ホテルサンバリーに時間・場所変更

大分東RC 9月27日(木)の例会は、夜例会の為 同日18:30~丸福に時間・場所変更

杵築RC 9月27日(木)の例会は、ガバナー公式訪問例会の為 同日17:00~パストラル三河苑に時間変更

中津平成RC 9月27日(木)の例会は、観月例会の為 同日18:30~母屋に時間・場所変更

宇佐RC 9月27日(木)の例会は、観月例会の為 同日18:30~安心院葡萄酒工房に時間・場所変更

佐伯MARINERC 9月28日(金)の例会は、佐伯RCとの合同観月会の為 同日19:00~金水苑に場所変更

5. 次週の予定

『月見例会』

時間・場所を変更して、18:30~割烹旅館ゆめさきに於いて開催致します。お間違えのない様ご注意下さい。

『会員コラム』上妻 浩会員

(原稿をお願い致します。)

6. 本日の回覧

『月見例会』出・欠席

『もみじ谷奉仕作業』出・欠席

7. 本日の配布

週報 No.881

『水資源を大切に』 鳴海淳郎R情報委員長

スマイルボックス

委員長 赤嶺 リサ

森会長

先日は義母の葬儀に際しまして、多くのご厚志を賜りました事、心より御礼申します。

大島会員

朝夕はずい分と涼くなりましたね。本日はお誕生日の御祝いありがとうございます。ますます、熱意をもってゆきたいと思います。

平野会員

今日は人数が少ないのでお布施スマイル。

高宮会員

孫の保育園主催の敬老会で、松山まで行って来ました。初めて、孫とゲームや踊りや歌で楽しいひとときを過ごし、幸せを感じました。

上妻会員

来週の月見例会、楽しみです。丁度、中秋の名月の当日だそうです、月が見られるといいですね。

村津会員

台風11号は通り過ぎたのに、お天気はぐずぐず続きです。すっきりした秋晴れを期待してスマイル。

後藤(孝)会員

昨日、「おじいちゃん、いつまでも元気でネ」というハガキを孫からもらいました。

私が初めて敬老された記念すべき日でした。うれしいと言うよりもゴルフで後藤隆さんに負けたようなショックを受けました。トホホ……。で、スマイルします。

**後藤隆 会員**

近藤さん、お誕生日おめでとうございます。王手だそうですね。来年は盛大にお祝いしましょうネ。

近藤会員

本日、皆様の祝福のもとに、誕生日を迎えることができました。本当にありがとうございました。でも、これ以上の年齢は欲しくないなあと苦笑です。

亀井会員

又々、突然の電話です！そうです、あの人です。元幹事近藤さんです！夜中の2～3時位です。と言うのも、先週一週間アメリカへホテルと観光施設を見学に行っていました。時差のせいです。多分日本では午前10時位だったのでは。いつも色々な事をご連絡いただき感謝しています。又、色々教えて下さい。

赤嶺会員

だいぶ過ごしやすくなりました。鳴海先生、本日の卓話頑張ってください。

社会奉仕活動委員会報告 委員長 村津 忠久

NPO法人別府もみじ谷トラスト機構主催の「秋のもみじ谷奉仕作業」を11月4日（日）に実施いたします。集合時刻はいつもと同じ朝8時25分です。

今回の作業場所は、鶴見橋から下って第2九電橋を渡った向こう側のC地区です。

作業内容は下枝剪りとつる草の根切りです。参加者の人数分の剪定鋸と鉋を用意したいと思いますので、参加申込書の該当欄に ×印をお願いします。

今回の作業の楽しみの一つは、鶴見橋から谷に下りる道が修復されている事と、第2九電橋がリニューアルされている事です。何れも平野工務店の施工で、9月末竣工の予定です。

11月4日頃はモミジも色づき始めていると思います。秋のハイキングを兼ねて奮ってご参加下さい。

卓 話

鳴海 淳郎

皮膚科医として、この道50有余年

1. 皮膚科医として私が歩いてきた道

皮膚科医になって54年になりますが、2007年1月1日、わたしは81歳になりました。

・東京通信病院時代：

昭和28年(1953)1月～昭和35年(1960)3月

昭和26年(1951年)九大卒業後東京通信病院にてインターン終了、そのまま同病院皮膚科に勤務することになり、当時新進気鋭な恩師小堀辰治先生のご指導を受けることになりました。

入局と同時に当時としては日本でいち早く副腎皮質ホルモン療法の研究に着手した共同研究者の一員となり、一方、アメリカで発展した新しい軟膏療法の手ほどきを受けました。そして、「副腎皮質ホルモンの円形脱毛症に対する治療効果、特にその奏効機序について」を主論文に審査をうけ、1959年 東京大学より学位を授与されたことは、わたしの生涯で忘れることのできない幸せなことのひとつでした。

・群馬大学時代：

昭和35年(1960)4月～昭和38年(1963)9月

ついで1960年、群馬大学医学部助教授として赴任、山崎教授より記載皮膚科学の原点に触れたドイツ流の厳しいご指導を受けました。この北関東における研究生活3年間の様々な体験と、前任地である東京通信病院での8年間のいわばアメリカ流の自由な研究体験がミックスされて、今日の自分があるということ、今更ながら感謝しています。

・東京皮膚科診療所時代：

昭和38年(1963)10月～昭和43年(1968)12月

昭和38年(1963年)9月、群馬大学を辞した後、同年10月より昭和43年(1968年)12月までの東京新橋における5年間の開業生活は、全国理美容ネットワークにのった特殊な体験でした。

・鳴海皮膚科クリニック：

昭和43年(1968)12月～

その後、父の度重なる脳梗塞の発作のために遂に故郷別府に帰って開業することになりました [診療所開設は昭和43年(1968年)12月24日、翌44年(1969年)1月13日より診療開始]

・医療法人社団 鳴海クリニック：

平成8年(1996)12月～ 現在に至る。

開業以来、地域医療の第一線で多くの患者さんに接し、皮膚に関する啓蒙と、幅広い皮膚科医療で地域社会に密着することを夢見てこれまでやってきましたが、この間、別府市医師会理事を3期6年、大分県医師会常任理事を3期6年、別府市医師会監事を2期4年務め、わたしとしてはまた



とない経験を重ねることができました。

また、皮膚科開業医は如何にあるべきかということについて、学会シンポジウムその他で意見を述べてきましたが、とくに皮膚科の専門性を生かして包括医療をきめ細かく行ない、地域に密着することを大切にきて来ました。

平成8年(1996)6月：日本皮膚科学会功労会員

2. 私の皮膚科医としてのルーツ

以上、皮膚科医として歩いてきた道について述べましたが、どうして私は皮膚科医になったのか、そのルーツを探ってみたいと思います。

幼年時代の追憶

人の話によると、わたしは母にとくに厳しく育てられたようですが、そのような厳しさよりも、幼年時代のわたしに英語でホーム・スイート・ホームを、フランス語でマルセイユを口伝えに教えてくれた母の優しさの方が記憶に残り、その後何10年も経つ現在においても、なお不完全ながらこれらを口ずさむことができます。

一方、父は小学生のわたしに昆虫採集の仕方を丁寧に教えてくれました。また、この頃たまたま父が学生時代に書いた顕微鏡のスケッチ画を何枚か見る機会があり、妙に感動したことを思い出します。このように、自然科学への憧憬は父より、感性の育みは母より受け継がれていることを今更のように思い出します。

高等学校時代の追憶

第五高等学校時代の後半、終戦後の1、2年間にあたりますが、わたしは動物学の先生のご指導で、余暇を利用して約70匹の「みみず」の解剖をしたことがあります。生殖器や盲嚢の形態を詳細にしらべ、比較解剖学の片鱗に触れて、妙に気を引かれたことを思い出します。

大学に進学して

その後九州大学医学部へ進みましたが、一年の夏休み、解剖学教授のご指導で肩甲骨の計測をしました。教授のご意向で84体の計測の結果を小論文(英文)にまとめましたが、戦後の混乱に紛れて未発表に終わってしまいました。しかし、骨の形が筋肉や関節の運動といかに関係が深いかを如実に知らされたものでした。

なぜ皮膚科医になったか

皮膚科医として既に50年は過ぎましたが、わたしがどうして皮膚科を選んだのか考えてみますと、以上述べてきましたように、父から教わった昆虫採集をきっかけに、高等学校時代には「みみず」の解剖をしたり、大学一年の放課後には肩甲骨の計測をしたりして、自然にものを見る訓練をさせられてきました。

また、わたしは一時、精神科を選ぼうと考えたこともありましたが、なぜ母校に入局しないで東京に出てきたか、その一つに経済的な原因があり

ました。

東京通信病院でインターンをするようになって色々考えた末、当時の中島病院事務長が大分県佐伯出身であったこともあり、事務長の紹介もあって皮膚科部長、小堀辰治先生の教えを受けることになりました。

そして、入局以来病室の医局で机をならべ、四六時中わたしを細かく指導して下さったオーベンの平出先生は、入院患者さんを極めて丁寧にみられる方で、早朝から色々一緒に検査をしたり、病歴を細かく書くことを教えられたり、患者さんが亡くなると、病理の先生と一緒に解剖に立ち会われるなど、皮膚科医として本当に全身をよく診られる先生に私は感化されました。

Was ist das Schwerste von Allem?

Was dir das Leichteste duenket,

Mit den Augen zu sehen,

Was vor den Augen dir liegt.

これは数あるゲーテの詩の一つですが、私はこの詩が好きです。(すべてのものの中で最も難しいものはなにか、それは、あなたの前にあるものを見るという、最もたやすいと思われることであるという意味) この詩をはじめて知ったのは、丁度インターンの頃でしたから、あるいはこれが皮膚科医を志すきっかけになったかも知れません。

また、わたしは特に皮膚と「こころ」の問題を考えていますが、前述のように一時精神科を志望したことと関係があるように思えてなりません。皮膚と神経とは発生学的にも外胚葉という同一のオリジンであることから、切ってもきれない関係にあることを今更のように思う次第です。

3. 新しい夢の実現

1) 皮膚科医療の将来とジェイ・エヌ スキンケアセンターの設立(1991年8月)

今や時代の要求は治療よりもケアにあります。皮膚病を治すことは勿論大切ですが、健康な肌をつくるためのスキンケア、更に、皮膚を美しく見せるためのテクニックなどが必要になってきました。

一方、従来、皮膚科医は皮膚病を治すだけで、お化粧品や美容は専ら美容師に任せきりでした。然しこれは間違いで、皮膚科医は皮膚病の治療は勿論のこと、更に進んでスキンケアまで手掛ける必要に迫られてきています。

つまり、今後は、皮膚に関する医学と美容のドッキングが必要であり、皮膚科学に立脚した美容が大切と思うわけであります。

このようなことから、当クリニックでは、治療とケアを一貫して行うために、有限会社ジェイ・エヌ スキンケアセンターを併設して、皆様のご期待に沿うことにしました。(平成3年8月20日)



2) 新しい治療法の導入

凍結療法：1974年（昭和49年）以降

液体窒素による普通の「いぼ」や老人性の「いぼ」等の治療

レーザー治療

- ・低反応レベルレーザー治療（平成5年2月以降）
とくに帯状疱疹後の神経痛や、通常の治療でてこずっている痒疹などの『慢性皮膚疾患』『しろなまず』『円形脱毛症』などの治療に応用
- ・高反応レベルレーザー治療（平成12年6月以降）
とくにアザ、シミ、ホク口の治療に応用、とくに2000年6月から大分県では初めての、九州では3番目のQスイッチ・ルビーレーザーを導入して、太田母斑という特殊なアザの治療を始めました。また、炭酸ガスレーザーも導入してイボやホク口の治療が容易になりました。

3) 新世紀に向けて理想の全身シャンプーをつくる（2001年1月）

スキンケアの第一歩である皮膚の清浄、とくに入浴の問題は、温泉地・別府に住む人々にとっては切実な問題であり、常にわたしの脳裏から離れられない問題でした。

過去3回にわたる入浴調査の結果を生かし、何時かは理想的なシャンプーをつくりたいと思っていましたが、2001年1月、東京の化粧品メーカーの協力を得て、オリジナルの全身シャンプー（ジェイ・エヌ全身シャンプー）をつくることになりました。

ジェイ・エヌ全身シャンプーの特徴：

- ・『あか』や『よごれ』は取るが、最後の脂気は残し、しっとりとして皮膚を保護する。
- ・温泉のような硬水で使っても、普通の石鹸と違い、肌を荒らさない。したがって、アトピーの人も安心して使える。
- ・普通の中性洗剤と違って、泡は分解しやすく、公害を残さない。

4) 皮膚に関する啓蒙の推進

(1) 皮膚に関する小著発行

地域の人々が皮膚に関する認識を深め、皮膚が如何に大切な器官であるかを知っていただくために、皮膚ならびに皮膚科のPRを大いにする必要がありますが、昭和61年5月（1986年）小冊子「皮膚、この大切な器官」の発行について、下記の表のように次々に小冊子を発行して、その目的を果たしてきました。

- | | |
|---------------|---|
| 1. 皮膚、この大切な器官 | 初版 昭和61年5月（1986年）
第2版 平成 8年3月（1996年） |
| 2. お化粧品と皮膚 | 昭和63年10月（1988年） |
| 3. 皮膚と「こころ」 | 平成 5年8月（1993年） |
| 4. スキンケアのために | 平成11年1月（1999年） |
| 5. 「みずむし」を治す | 平成11年7月（1999年） |
| 6. 温泉と皮膚 | 平成13年7月（2001年） |
| 7. 皮膚科診療のために | 平成15年1月（2003年） |

8. 皮膚を心底きれいにするには 平成18年1月（2006年）

(2) ホームページ「クリニックレポート」の開設

また、一般の方の啓蒙に役立つべく、平成13年（2001年）8月1日より、ホームページ（<http://www.narumi-clinic.jp>）を開き、クリニック・レポートとロータリー探究の2本立てで更新を繰り返してきました。

その意図は、ロータリアンである私が、皮膚科医という職業分類を生かして如何にロータリーと取り組んでいるか、そのサンプルを提供してご参考に供したいと思ったからです。

皮膚科医50年の経験に新しい知識を加え、時宜に適した話題をテーマに主としてありふれた皮膚病についてわかりやすく解説するとともに、わたしの考え方を皆さんによく知っていただくために、開設以後ははじめは毎週1回、2年目から10日に1回、最近は月1～2回の更新で6年になりますが、平成19年（2007年）8月2日で161回に及んでいます。

このたび、ホームページ開設6周年を記念し、当クリニックがとくに力をいれ、自信をもってお応えできる下記3つの治療を選び、これらを整理して小冊子を発行し、これを患者さんのために用意して“Nothing but the best”の皮膚科診療に役立てることにしました。

当クリニックにおける皮膚科診療の実際

- () アトピー性皮膚炎を治す
- () 「にきび」を上手に治すには
- () レーザー治療の魅力

5) 夜間診療の実施（2002年10月）

- ・アンケート調査の結果、患者さんの要望に応じて2002年10月21日より開始
- ・月、火、水、金曜の6時半より8時まで実施しています。

4. 皮膚科診療に対するわたしの考え方 ～ 皮膚科医としてロータリーに生きる ～

上述のように、皮膚科医として54年、郷里別府に帰って開業39年になります。またロータリー・クラブに入会して37年になります。

この37年にわたるロータリーの体験は、更に皮膚科医としての職業奉仕に磨きをかけながら現在に及んでいます。

私の職業奉仕は、『常に大所高所より、あくまでも患者さんのために』にあります。

安易に患者さんの要求に応ずることのみが医師の職業奉仕ではないと思います。

患者さんのために、常に新しい夢をもち、現時点において最善の治療が提供できるよう、研鑽を怠らないことでもあります。

また、医師の倫理と患者の倫理が共に全うされ、はじめて真の医療が行われるわけですし、このような点から健康教育活動が大切と思う次第であり



ます。

これからの医療は、病気や薬、治し方についての説明をよくすることはもとより、患者さんが自分の病気に対する自覚と、病気を早く治そうという気構えをもって貰うことが大切で、これと平行して病気にならないよう、日頃からの健康教育が何としても必要と思いますし、これが患者さんの為に一番いいのではないかと思う次第であります。

こうなると、医師の職業奉仕は更に大切で、一層幅のあるものになってくるわけであります。

このようなことで、皮膚科の専門性を生かした包括医療をきめ細かく行い、常に地域に密着することを考えて来ました。

そして、皮膚科医は単に皮膚のみならず、場合によっては皮膚を通して人間全体を考え、更には、まわりの環境をも念頭におく必要があることを考えてきました。

とくに私たち開業医は、地域医療の第一線にあって多くのありふれた皮膚病患者に接するわけですから、これと積極的に取り組み、上手に治せる医師でなくてはなりません。

そのためには、皮膚症状並びにその治療経過を細かくみることは勿論ですが、その原因なり、それを治りにくくしている背景を探るため、必要な

諸検査を行い、この検査所見を参考にして皮膚症状を診、それに合わせた治療法を選び、治療経過を診なければなりません。

とくにアレルギー性皮膚疾患の場合にあっては、アレルギーに対する処置は勿論ですが、場合によっては神経、とくに自律神経ならびに内分泌の影響をも考え、言わば三位一体の概念に基づいた治療が必要と思う次第です。

5. 私の好きな言葉

“ To dream a new dream ”

(新しい夢をみようよ)

これはロータリーからとった言葉ですが、ロータリー財団管理委員会が1990年6月の会合で、ポリオ・プラス・プログラムの目的に関し、次のような声明を採択しました。

“ To dream a new dream ” 「新しい夢を夢見て…ロータリーは相違をつくる」と題するこの声明は、ポリオを単に制圧するだけでなく、根絶するという新しい夢をもって引き続き援助を必要とする諸国にワクチンを供給すると述べ、国際ロータリーは2005年に100周年記念とポリオのない世界、即ちpolio-free worldという二重の慶びを味わうことになるとしたのです。

“ Nothing but the best ”

(これ以上良いものはない)

これは「メルセデス・ベンツ 栄光の歴史」という本のタイトルからとったもので、車に関する著述で有名なジョン・ハイリッグは、メルセデスについて次のように言っています。

『100年という時代の中で変化しながら、しかも、どの時代にも常に最高の水準を守り続けてきた。これは自動車業界では他に類をみない。それが、メルセデスを“この比類なき存在”と呼ぶ理由である』と。

私はこれを読んで、製造業の場合は「これ以上の良いものはつくれない」という気持ちで、サービス業の場合は「これ以上のサービスはできない」という気持ちで努力すること、医師の場合は「患者さんのために現時点で最善の医療を施す」よう努力することであると信じ、これを仕事に生かしています。

会員コラム

近藤 賢司

『祇園精舎の鐘の音 諸行無常の響きあり
沙羅双樹の花の色 盛者必衰の理をあらわす
驕れる者も久しからず ただ春の夜の夢のごとし
猛き者もついには亡びぬ

ひとえに風の前の塵に同じ』

私の好きなフレーズの一つです。世の中に永遠不変のものはなく、人も物もいつかは必ず滅ぶ。それはいつの日か私にも必ずやってくる。それまでのつかの間の人生を精一杯生きていこうと心に決めている還暦に王手をかけた私の心境です。

次回は、上妻浩会員です。